

計画高水位は堤防の安全についての信頼性を損なうことのない高さに設定するもの

- 計画高水位は堤防の安全についての信頼性を損なうことのない高さに設定するもの
 - ・したがって、洪水時の平均の水位が計画高水位を超えたからといって、たちまち堤防が決壊するわけではない
 - ・耐震設計基準、食品の安全基準等の世の中の安全基準は、すべてこのように安全性を損なうことのない範囲で設定されている

川の中で安全に洪水を流す対策

- 川の中で安全に洪水を流すことについての計画は、安全性を損なうことのない高さである計画高水位以下で目標流量を流すものとしなければならない
- このため、「とどめる」、「ためる」、「ながす」という量的な対策が必要

堤防強化対策

- 一方、堤防の安全性を確保するためには、まず計画高水位以下の流水の通常的作用に対して安全となるような堤防強化(図の①)を行うことが必要
- さらに現実に平均の水位が計画高水位を越える洪水は起こりうるので、そのような洪水に対しても粘り強くする堤防強化(図の②)もあわせて必要
- しかし、平均の水位が計画高水位を超える洪水に対する堤防強化は、確実な信頼性を期待できず、また技術的な説明もできていない

- 以上のことに加え、堤防は一箇所が決壊しても広域に甚大な被害を及ぼすことから、そのような堤防強化は量的対策に代替できるものではない。

洪水の平均の水位と安全性の関係

